

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、正確に記入すること。

現金	普通預金	当座預金	電子記録債権	売掛金
前払金	仮払金	建物	電子記録債務	買掛金
未払配当金	前受金	仮受金	貸倒引当金	資本金
利益準備金	繰越利益剰余金	売上	償却債権取立益	仕入
旅費交通費	租税公課	発送費	修繕費	貸倒損失

- 建物の改築と修繕を行い、代金¥1,600,000を普通預金口座から支払った。うち建物の資産価値を高める支出額は¥1,280,000であり、建物の現状を維持するための支出額は¥320,000である。
- 株主総会で繰越利益剰余金¥1,200,000の一部を次のとおり処分することが承認された。
株主配当金：¥160,000
利益準備金の積立て：¥16,000
- 得意先鳥取商事株式会社に商品¥416,000を売り渡し、代金のうち¥280,000は注文時に受け取った手付金と相殺し、残額は掛けとした。なお、発送のための費用（当社負担）¥5,360は現金で支払った。
- 得意先神奈川商事株式会社が倒産し、前期の売上げにより生じた売掛金¥25,600および当期の売上げにより生じた売掛金¥16,000が回収できなくなったので、貸倒れの処理を行う。なお、貸倒引当金の残高は¥28,800である。
- 株式会社NS商事の設立にあたり、1株当たり¥40,000で株式を100株発行し、出資者より現金を受け取った。発行価額の全額を資本金とする。

第2問 (10点)

次の[資料]にもとづいて、(ア)から(エ)には適切な金額を、(A)には適切な用語を答案用紙に記入しなさい。なお、定額法(残存価額ゼロ)にもとづき減価償却が行われており、減価償却費は月割計算によって計上する。また、当社の決算日は毎年3月31日である。

[資料]

固定資産台帳

X5年3月31日現在

取得年月日	名称等	期末数量	耐用年数	期首(期中取得)取得原価	期首減価償却累計額	差引期首(期中取得)帳簿価額	当期減価償却費
備品							
X1年4月1日	備品Ⅰ	1	8年	1,228,800	460,800	768,000	?
X3年10月1日	備品Ⅱ	2	6年	720,000	60,000	660,000	?
X4年6月1日	備品Ⅲ	3	5年	1,200,000	0	1,200,000	?
小計				3,148,800	520,800	2,628,000	?

備品

日付	摘要	借方	日付	摘要	貸方
X4 4 1	前期繰越	(ア)	X5 3 31	次期繰越	()
6 1	普通預金	(イ)			()
		()			()

備品減価償却累計額

日付	摘要	借方	日付	摘要	貸方
X5 3 31	次期繰越	(ウ)	X4 4 1	前期繰越	()
		()	X5 3 31	(A)	(エ)
		()			()

第3問 (30点)

次の資料(A)および(B)にもとづいて、答案用紙のX9年5月31日の残高試算表を完成しなさい。

(A) X9年4月30日の残高試算表

残 高 試 算 表		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
387,360	現 金	
960,000	当 座 預 金	
360,000	電 子 記 録 債 権	
456,000	売 掛 金	
	貸 倒 引 当 金	21,600
260,800	繰 越 商 品	
160,000	前 払 金	
304,000	備 品	
	備品減価償却累計額	136,800
	電 子 記 録 債 務	248,800
	買 掛 金	313,600
	借 入 金	1,200,000
	前 受 金	63,200
	所 得 税 預 り 金	6,400
	資 本 金	1,200,000
	繰越利益剰余金	400,000
	売 上	3,684,000
2,952,000	仕 入	
960,000	給 料	
45,600	発 送 費	
352,000	支 払 家 賃	
44,640	通 信 費	
32,000	租 税 公 課	
7,274,400		7,274,400

(B) X9年5月中の取引

(1) 当座預金に関する取引

a. 電子記録債権の期日入金額	¥ 144,000
b. 売掛金の回収額	¥ 264,000
c. 電子記録債務の期日支払額	¥ 128,000
d. 買掛金の支払額	¥ 281,600
e. 借入金の返済額	¥ 256,000
f. 借入金利息の支払額	¥ 14,400
g. 給料の支払額	¥ 113,600
(所得税の源泉徴収額¥6,400差引後の振込額)	
h. 現金の引出額	¥ 80,000

(3) 売上に関する取引

a. 掛売上高	¥ 624,000
b. 手付金による売上高	¥ 62,400
c. 掛戻り高	¥ 16,000

(4) 仕入に関する取引

a. 現金仕入高	¥ 96,000
b. 掛仕入高	¥ 248,000
c. 手付金による仕入高	¥ 128,000
d. 掛返品高	¥ 9,600

(2) 現金に関する取引

a. 商品発注による手付金の支払額	¥ 38,400
b. 仕入高	¥ 96,000
c. 商品受注による手付金の受入額	¥ 29,600
d. 諸費用の支払額	
家 賃	¥ 36,800
電 話 料 金	¥ 6,320
商品発送運賃	¥ 4,480
収 入 印 紙	¥ 7,200
e. 所得税の源泉徴収額の納付	¥ 6,400
f. 当座預金引出しによる手取額	¥ 80,000

(5) その他の取引

a. 前期発生売掛金の貸倒れ	¥ 8,800
b. 買掛金の支払いのための電子記録債務の発生	¥ 162,400

第4問 (10点)

次の文の(ア)から(オ)に当てはまる最も適切な語句を下記の語群から選び、答案用紙に記入しなさい。

1. 取得した土地を利用できるようにするために支払った費用は(ア)勘定で処理する。
2. 株式会社においては、決算振替仕訳により(イ)勘定にて当期純利益または当期純損失を計算し、(ウ)勘定へ振り替える。
3. 得意先元帳とは、得意先ごとの売掛金の増減を記録する(エ)である。
4. 貸倒引当金は、受取手形や売掛金に対する(オ)勘定である。

(語群)

棚卸表 総勘定元帳 土地 評価 諸口 補助記入帳
 仕訳 統制 仕丁 転記 支払地代 摘要
 元丁 資本金 損益 補助元帳 繰越利益剰余金

第5問 (30点)

次の[資料1]および[資料2]にもとづいて、答案用紙の貸借対照表と損益計算書を完成しなさい。なお、会計期間はX8年4月1日からX9年3月31日までの1年間である。

[資料1] 決算整理前残高試算表

借方	勘定科目	貸方
220,000	現金	
	当座預金	180,800
456,800	普通預金	
376,000	売掛金	
36,800	仮払法人税等	
112,800	繰越商品	
720,000	建物	
320,000	備品	
752,000	土地	
	買掛金	181,600
	前受金	80,000
	社会保険料預り金	10,400
	貸倒引当金	4,000
	建物減価償却累計額	144,000
	備品減価償却累計額	192,000
	資本金	1,440,000
	繰越利益剰余金	378,400
	売上	2,634,400
	受取手数料	80,000
1,520,000	仕入	
384,000	給料	
233,600	広告宣伝費	
14,400	保険料	
67,200	水道光熱費	
112,000	法定福利費	
5,325,600		5,325,600

[資料2] 決算整理事項等

1. 売掛金の代金¥56,000を現金で受け取ったさいに以下の仕訳を行っていたことが判明したので、適切に修正する。
 (借方)現金 56,000 (貸方)前受金 56,000
2. 当座預金勘定の貸方残高全額を借入金勘定に振り替える。なお、取引銀行とは借越限度額を¥800,000とする当座借越契約を結んでいる。
3. 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
4. 期末商品棚卸高は¥87,200である。
5. 有形固定資産について、次の要領で定額法により減価償却を行う。
 建物：残存価額ゼロ、耐用年数30年
 備品：残存価額ゼロ、耐用年数5年
6. 保険料は全額当期の8月1日に向こう1年分を支払ったものであるあるが、1月中に解約した。保険会社から2月1日以降の保険料が月割で返金される旨の連絡があったため、この分を未収入金へ振り替える。
7. 手数料の未収分が¥16,000ある。
8. 法定福利費の未払分¥10,400を計上する。
9. 法人税等が¥84,000と計算されたので、仮払法人税等との差額を未払法人税等として計上する。